

2022.4.21



地域日本語支援ニュース こだま 第418号

ともに生きる

～地域で、日本で、そして世界で～

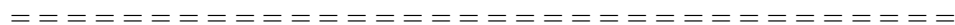


★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース 「こだま」】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部：<https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>



新年度のご挨拶

公益社団法人 国際日本語普及協会（AJALT）

理事長 関口 明子

皆様 いつもメールマガジン「こだま」をお読みいただきありがとうございます。「こだま」も本号で418号となり、お読みいただいている方々も2,059名になっております。

2022年度を迎え、新たな気持ちでメールマガジン「こだま」をスタートしたいと思います。コロナ禍も3年目となり、世界中が同じ苦しみを同時に味わうという初めての経験の中で私たちは多くを学びました。

そして今コロナ禍に加え、ロシアのウクライナへの侵攻という状況の中で、その戦況が毎日報道されています。ウクライナの人々に対して世界中が注目し、その避難民への救済を多くの人々が真剣に考えています。自分にできることは何かという問いかけをしつつ、具体的な救済策を考え、行動しています。

このような状況で、本日（4月17日）21時からNHKでミャンマーの現状が放映されました。やはり一時期連日報道されていましたが、最近はウクライナ一色になっていました。ミャンマーは昨年2月に軍がクーデターを起こし、国を統率しましたが、少数民族が抵抗し武装集団を作って戦っています。多くの市民が国軍の犠牲になっているという状況だそうです。クーデターから1年余りたった今、日本在住のミャンマーの人々が、自国の現状を知ってほしいと述べていました。「今一番心配なのは決して平和になっていないミャンマーが忘れられてしまうことです」と語っていました。

同様にロシアのウクライナ侵攻の陰で、ロシアの一般の人々も難しい立場になっています。その中でうれしいニュースがありました。千葉市にあるロシア料理のレストラン「マトリョーシカ」のロシア人の店主の方は「二つの国はきょうだいのような関係。両国に親戚も多い。誰も戦争を望んでいない。来日するウクライナ避難民の方を支援し、仕事も面倒見ます」と述べています。

私たちは全て一色の報道の流れに惑わされることなく、社会貢献としての活動を地道にかつ果敢に挑戦していく必要があると思います。

メールマガジン「こだま」の役割も多面的な角度での情報提供もしていくことが望まれていると思います。

今年度のテーマは引き続いて「ともに生きる～地域で、日本で、そして世界で～」に決定しました。この大きなテーマのもとに「私たちの挑戦」という小テーマの記事も入れていけたらと考えています。

どのようなことが私たちはできるだろうか。具体的にこのような挑戦をしていらっしゃる方々、あるいはこのような挑戦をしていきたい方等々にぜひ執筆をお願いしていきたいと考えています。

世界が平和に近づくことを切に願って今年度のご挨拶にいたします。

どうぞ「こだま」を今後ともよろしく願いいたします。

---